

①

✖ ✖

a

11

1

をくく

ジェーン・ハリーが、『コンピュータが子どもの心を変える』において、たくさんの実例を挙げながら、説得力

に満ちた考察をしてくれているので、ぜひそれをお読みいただくとして、ここでは、コンピューターというのは

B

※ということだけを、私自身の経験も含めて少しお話ししておきたいと思います。

みなさんは、マコーレイの『道具と機械の本』という、とてもおもしろい知識の本をごぞんじでしょうか。これは、私たちのまわりのありとあらゆる道具や機械から二百種あまりを取り上げて、その原理と仕組みを、ときにはユーモアをまじえたイラストを使ってわかりやすく説明した本です。私はたまたまその翻訳を手伝うことになり、説明文の翻訳が科学の知識のない人間にでも理解できるようになっているかどうかのチェックを受け持ちました。四百ページ近い大型本の全体にきつちりと目を通して見ると、ファスナーやスプレアの仕組みから、はてはコンピューターの原理まで、いろんなことがわかるようになって、とてもいい勉強をしました。

その後、この本の原書がCD-ROMになり、その日本語版が出たのを見る機会がありました。ところが、イラストの一部が動いたりするのをおもしろがりながら、次々にクリックして見ているうちに、しだいに不満がつつてきました。たしかに、もともとが図鑑的な本ですから、見たい機械を検索するとばつとその画面が出てくるのは、とても便利です。しかし、本ならば、たとえば電話というのが遠隔通信の項目にあつて、ラジオ送信機、受信機、テレビカメラ、ビデオレコーダー、人工衛星、電波望遠鏡、宇宙タンサ機と肩を2 ているのがわかり、その全体が光、写真、印刷、音などとともにハードウを利用した機械の部に含まれていることも理解しやすいのですが、パソコンの画面で見ていると、見えるのは常にそのページだけで、それが全体のなかのどこにあるのかは、全然つかめないのです。

もちろん本でも、一度に見られるのは見開き二ページだけです。しかし、手でページをめくればつながりが

実感しやすいのに対し、マウスをクリックして出すページとページのつながりは、近いのやら遠いのやらさっぱりわかりません。たとえば、手元に置いて何度も読み返している本であれば、あの場面あの台詞は、本の厚みの三分の一くらいの左側のページのまんなかあたりにあつた、などということまで覚えていたりするものですが、そんなつかみ方が全然できないのです。もうひとつ気になったのは、そのCD-ROMに入っている情報全体のうち、自分がどれだけに目をとおしたのかも、全然つかめないということでした。本ならば、「どこまで読んだ」「全部読み切った」と確認することができのですが、マウスをクリックしているとしょっちゅうものと画面にもどってしまい、そこからまた出直すので、まるで見通しのきかない迷路のなかにいるようです。この経験のおかげで、私は、手に持ってページをめくれる「本」という「もの」自体がどんなに優れているかということ、以前にも増してツウカンするようになりました。

CD-ROMにかぎらず、コンピューターの操作というのは、基本的に、目の前に差し出された選択肢のなかからどれかを選ぶことの連続です。そのサイタルものが、ロール・プレイング・ゲーム(RPG)で主人公の仲間が倒れたときに「連れていく」か「置いていく」か「治療のための薬草をさがしに行く」かを選んだりする「三択」の類でしょう。私たちが現実に行動するとき、とりあえず思いつく選択肢は二つ三つしかなくても、「それ以外の選択肢は原理的にありえない」ということはまずありません。発想の転換をすれば思いがけない解決策が見えてくるというのは、よくあることです。しかし、パソコンの画面で次へ進むときには、たとえ「三択」が「三十択」であろうと、「それ以外の選択肢があるかもしれない」可能性は考慮する必要がないのです。もちろんコンピューターでも、むずかしい問題を解決しようと思ったら、先々のことまでを全体的に考えなが

ら、目の前の選択肢にのぞむことが必要でしょう。しかし、そんなふうに考えるためには、コンピューターの操作に気をとられないで、自分が抱えている問題自体を意識の中に置くように、よほど気をつけなくてはなりません。コンピューターというのは、原理的に「いまあなたに」3「ているのは、この選択肢のなかから一つを選ぶことだけです。あとのことはまたあとで考えてください」と、私たちを誘惑し続ける機械です。それに身を4ていれば、たいして考えなくても物事が進行するのが心地よくて、私たちはコンピューターに  
はまっついてしまい、それに主導権を5「ることになるのではないでしょう」か。

こんなにも誘惑的なコンピューターを相手に、人間のほうが主導権を握り続けるためには、自分が直面している問題の全体像をしっかりと把握し、いまそのなかのどこにいるのかをつかんでおくことが重要です。そういう力を身につけるためには、実体のある本というもののとのつきあい、さらには、それらを自分の使い勝手に合わせて並べた本棚ほんだなというもののとのつきあいが、大きな役割を果たすのではないのでしょうか。自分で並べたのではなく、いつも利用していて、どこにどんな本があるのかをよく知っている図書館というのも、頭のなかに知識や考えの「地図」を作るのに、とても役立つと思います。図書館でもコンピューターでの検索が主流になりつつありますが、子どものうちはそんなものには頼らないで、書棚のあいだを歩きまわって背表紙をながめ、興味を

6 たら引っぱりだしてみるのが、ずつといいと思います。たとえその図書館にある本の数が少なくても、そうしていれば、いつのまにか、ジャンルや国による物語のちがいや、知識の本がカバーしているさまざま

な分野についての、おおまかな **C** が感じとれるようになるはずです。それに対してコンピューターとのつきあいからは、どんなにたくさんの情報が得られたとしても、「**C**」というものはけっして見えては

こないでしょう。

（脇明子『読む力は生きる力』より）

※ ショット……一台のカメラで連続的に撮影された一続きの映像。

※ マコーレイ……イギリスのイラストレーター、作家。

※ C D R O M …… コンピュータなどが扱うデータを記録した読み取り専用のディスク。

問1 ——— ①「いたるところ矛盾だらけのものが目立ちます」とありますが、その原因として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 超自然的な世界や幻想的な世界が題材として描かれるため、ストーリーが現実離れたものとなるから。

イ 型やぶりのストーリーの展開や話のおもしろさが求められるため、物語の筋道に飛躍が多くなるから。

ウ 一連の効果的な映像を念頭に置いて考えられるため、物語の筋道や一貫性は十分に考えられていないから。

エ 子どもにもわかりやすい言葉や表現を重視するため、物語の筋道や一貫性が後回しにされるから。

オ 最近のアニメや映画の影響が強いため、主人公の人物設定が現実とはかけ離れたものになりやすいから。

問2 — ②「こういう書き方」とは、どういう書き方ですか。「∴書き方。」に続くように、本文中から二十五字以上三十五字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問3 — ③「ほんとうに想像力や思考力を働かせて本を読んでいる」とは、物語の場合、どうすることですか。本文中からぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問4 

|   |
|---|
| 1 |
|---|

|   |
|---|
| 6 |
|---|

 に入る語句として最も適切なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使ってはけません。

- |       |                      |                       |                     |        |
|-------|----------------------|-----------------------|---------------------|--------|
| ア 並べ  | イ 奪 <sup>うば</sup> われ | ウ 入れ                  | エ 携 <sup>たづ</sup> え | オ 課せられ |
| カ ながめ | キ ゆだね                | ク 培 <sup>つちか</sup> われ | ケ 抱え                | コ ひかれ  |

問5 

|   |
|---|
| A |
|---|

 に入る言葉を考えて答えなさい。

問6 

|   |
|---|
| B |
|---|

 に入る文として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア むずかしい問題を考えるということのできない道具だ  
イ 全体を見渡すということのできない道具だ  
ウ 迷路のなかにいるように感じさせる複雑な道具だ  
エ たいして考えなくても物事が進行していく道具だ  
オ 情報を得るという点ではとても便利な道具だ

問7 — ④「『本』という『もの』自体がどんなに優れているか」とありますが、筆者が述べている「本」の「優れている」こととして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア コンピューターでは画像ばかりに気をとられてしまうが、本は自分の想像力や思考力を働かせながら読み進められること。  
イ コンピューターの画面の進行していくスピードに関係なく、自分のペースで理解を深めながら読み進められること。  
ウ コンピューターの画面を通しては感じられない紙の質感や、ここまで読み終えたという達成度を確認することができること。  
エ コンピューターの画面ではわからないページ間の関連性や、自分がどこまで読み進めたかを理解することができること。  
オ コンピューターの画面では見られない多くのページを同時に見ることができ、また、必要に応じて何度でも読み返せること。

問8 — ⑤「パソコンの画面で次へ進むときには、たとえ『三択』が『三十択』であろうと、『それ以外の選択肢があるかもしれない』可能性は考慮する必要がない」とありますが、その理由を「…であるから。」に続くように、本文中から五十字以内でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。



問9

C にあてはまる語を本文中からぬき出して答えなさい。

問10 この文章の内容に合っているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

A コンピューターはとても便利で情報収集には有益な道具であるが、その機能は限定されているので、本との共存の方法を考えていく必要がある。

イ コンピューターに人間性を奪われないためには、自分が抱えている問題を常に意識し、本によって得た知識を用いて、解決策を考えていく必要がある。

ウ 図書館を利用する場合は、書棚のあいだを歩き回って、興味がある本を手にとって読んでいくことによって、本分野と配置などの「地図」を描けるようにすることが重要である。

エ 文字よりも映像の方が人々をひきつける力が強いいため、最近の子どもの本には、映画化することを前提として書かれたものが多くなっている。

オ 自分が抱えている問題自体をしつかりと意識できる力を身につけるためには、本とつきあい、頭の中に知識や考えの「地図」を作っておくことが大切である。

問11

|| a e のカタカナを漢字に直しなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(作問の都合上、一部を省略してあります。)

夏休みの終わり頃、幽霊のレイさんにとりつかれてしまった私が、入院しているママのお見舞いに来た場面です。

「もうすぐ新学期だよね」

ママが言った。せっかくの安心感が吹き飛び、嫌な気分が全身が支配される。やだ、この話題。もっと別なことを話したいのに。

「新しい教科書とか、もうもらってたでしょ。前の学校とは進度が違うだろうから、ちゃんと予習しておいたほうがいいわよ。スマホのゲームとかは、ほどほどにして」

私は、押し黙る。手術したばかりなのに、まさかもう、いつもの説教が始まるのだろうか？  
なにかもう、ママの執念みたいなものを感じて、恐ろしくなる。

私を前向きで、やる気あふれる人にしなければという執念を。

① どうがんばっても、その期待には応えられそうにないのに。

「喋ってないで寝たほうがいいよ」

② そう言って黙らせようとしたのに、

「ううん、大丈夫」

痛みに顔をしかめつつ、ママは喋り続けている。

「こんなときに、入院しちゃってごめんね。だから、余計にいろいろ心配で……。あのさ、前に会ったと思うけど、同じマンションの七階の吉川翠ちゃん、覚えてるよね？」

覚えている。こっちに越してきてまもなく、ママに引き合わされた。その子のパパはうちのパパと、同じ会社に勤めているという。

同じ中一だし、きっと仲よくなれるわよ。

そのときママはそう言って、吉川さんとかいう子のママに根回しし、勝手にケーキなど焼いて強引に家に呼び寄せたのだ。ダイニングのテーブルで、まるでお見合いのように向かい合わせにされ、それはそれは気まずかった。ただでさえ「よその人」に恐怖を感じているのに……。ほとんど拷問みただった。

吉川さんはまっすぐな黒髪を、こけしのようなボブカットにしていた。ギョロツとした目と、への字に結んだ口元が、不機嫌な金魚みたいに見える。本を読むのが好きらしく、大人が読むような本を小脇に抱えていた。

「あなたは、どんな本が好き？」

吉川さんは、先生みたいに偉そうに尋ねてきた。

私はふだん、漫画しか読まないから、好きな漫画家の名前をポツリポツリと答えた。

すると吉川さんは「そんな作家、聞いたことない」と言い、「私は、村上春樹かな。外国の作家やったら、ヘミングウェイ」と、自慢そうな顔をした。

「知ってる？ ヘミングウェイの飼ってた猫って、足の指が六本あったんやって」

私はボカんと、吉川さんの顔を見つめていたものだ。

なにそれ……。ヘミングウェイなんて人は聞いたこともないし、猫の足の指が六本だなんて、気持ちが悪いだけなんですけど。

それからも会話はまったく弾まず、吉川さんはふいと横を向いて『武器よさらば』とかいう本を読み始め、私はスマホでゲームをし始め、お見合いは物別れとなった。それでもママは、しばらくの間、あの子と仲よくすればいいのに、と繰り返していたものだ。

「ねえ、教科書とか見て、わからないところは吉川さんに教えてもらいなさいよ」

今、病院のベッドの上で、手首に点滴の針が刺さったジョウタイで、ママはまだそんなことを言っている。

「あの子、本好きだからきつと頭いいわよ。それに、近くに友だちがいれば、きつと新しい学校にも溶け込みやすくなるし」

ああ、もうやめて、新しい学校の話なんか。

「そのうちに」

私は精一杯、柔らかな言葉を選んでママのテイアンをしりぞけた。

吉川さんとはとうてい仲よくなれそうにないし、だいいち私は、「よその人」とつきあうことに、ほとほと疲れてしまっているのだ。また傷つくのが怖い。人間も学校も恐ろしい。

（中略）

口を固く結んで、私は黙って背を向ける。

「しっかり、がんばるのよ」

背中、だめ押しのようにママの声がした。

せっかくお見舞いに来たのに……。こんなに、早くよくなって願ってあげてるのに。ママの口から出るのは、やっぱり重たい励ましや、説教ばかり。手術してまで、あれをしろ、これをしろ、がんばれがんばればっかり言っている。

こんなママに、頼っている自分も情けない。けれどもパパと二人ぼっちの家も、不安で不安でたまらない。どこにも安らげる居場所がないような気がして、心臓が痛い。

いったい私は、どうしたらいいのだろう。

だから、病院からの帰り道。

レイさんが再び私の側に現れたとき、<sup>④</sup> ついつい嬉しいような気持ちになってしまったのだった。さっき、あれほど嫌なことを言われて、心をかき乱されたのに。

「むかつく幽霊が、また現れたでー」

レイさんは、<sup>⑤</sup> しゃあしゃあとした調子で言った。

「まあ我慢してや。今にきつと、あたし、自分のこと思い出せそうな気がしてるから。それまでの辛抱やん」

「……はあ。しかたないですね」

私は、できるだけ嫌そうな顔をして答えたけれど、心の中ではどこかホッとしていた。

変な感じだけれど、本当に不思議なんだけど、私は今このレイさんに癒やされているような気がする。幽霊に癒やされているって……。どうなっちゃったんだろう、私は。

「おかんのお見舞い、すんだん」

「はい」

「盲腸、もう治った？」

「まだですよ」

ポツポツと答えながら、レイさんと二人連れでマンションのゲートにたどり着く。私たちと入れ替わりのように、中から出てきた女の子がいる。

吉川さんだった。

こけしのような髪型にギョロツとした目。袖がレースになったブラウスに、膝丈のデニムパンツをはいている。今日も小脇に本を抱えている。

目をそらしてすれ違いざま、

「入院してるんやってね」

吉川さんの声が聞こえてきた。振り返ると、吉川さんは立ち止まり、無愛想な顔をこちらに向けていた。

「うちのお母さんが言ってた。あなたたちのお母さんが入院したらしいけど、うちになにかできることないか、聞いてみてって」

「……特に、ありませんけど」

「そうやんね」

吉川さんは、本を抱え直すとうなずいた。

「お母さん同士って、なんでああすぐに友だち同士みたいになって、セワを焼いたりしたがるんな。理解フノウ」  
その言葉にはサンセイで、思わずウンとうなずいた。

「私はおせっかいとか焼かないから。けど、ほんとに困ってるなら、援助してあげてもいいけど？ 必要ないんよね？」

吉川さんはまた、思いつき偉そうな態度で言ってきた。うなずくと、

「そう」

吉川さんは私からぶいっと目をそらして、スタスタと歩み去っていった。

「なーんか、感じるわ」

レイさんが、吉川さんの後ろ姿を見送りながら睨みつけている。私と一緒に、マンションの中に入りながら、つぶやいた。

「なんやねん、あのギョロ目の女」

「パパ同士が同じ会社なの。でも、気が合わないの」

エレベーターに乗り込みながら、説明をする。

「難しそうな本読んで、なんとかって作家の飼猫が、足の指が六本あった話を嬉しそうにしてた」

「その話の、なにがおもしろいねん」

「わかんない。でもママは、あの子と友だちになるといいよって。勉強も教えてもらえって」

「なんで、そんなこと言うん」

「私が転校生だから、そのほうが学校に溶け込みやすいって思ったんじゃない？」

「へーえ、あんたって転校してきたんや。そやから東京弁なんや」

レイさんが、今気づいたという顔をした。エレベーターが五階に着いて、自分の家に向かう。

ドアに鍵を差し込んでいる後ろで、レイさんがつぶやいた。

「けど、それやったら一時的にでも、あの子と親しくなっといたらええかもな。たしかに誰か知ってる人がおったほうが、なにかと便利やし。」  
1 利用したったらええねん」

「利用……」

その言葉が、またギザギザと心に引っかかった。

「利用して、うまくやって、あとはポイッて捨てるの？」

また、あの記憶がよみがえってくる。私を頼ってきた茜ちゃんの言葉が、ホワホワした笑顔が、脳裏に広がる。

それなのに、それなのに――。

そうか、私は茜ちゃんに利用されてたんだ。うすうす気づいてはいたけれど、改めてそのことを突きつけられた気がした。



田舎から越してきた茜ちゃんは不安で不安で、小さい子が自転車につける補助輪<sup>⑥</sup>みたいなものが必要だったんだ。けれどそんなものがなくても大丈夫だとわかったから、かっこ悪くて邪魔<sup>じゃま</sup>つけない補助輪なんか外したのだ。それだけのこと。用がすんだから、ポイツと捨てられただけ。

「私は、そんなことしない！」

ついつい声が荒くなり、ボタンと玄関のドアを閉めた。

「どないしたん。また、ムキになって」

「利用するの、されるのも嫌。それなら、ひとりでいるほうがいい」

「そうなん。あんたは、ひとりでいるほうがええんや」

レイさんが、へえ、という顔をした。

「まあ生きてる人間が二人以上集まると、必ずゴチャゴチャもめたりするもんな。けどひとりきりでおるのもまた、寂しいやん。もめるのと、寂しいのと、どっちをとるか人は人それぞれなんやろうけど。ふーん、あんたは

I ほうをとるんや」

私は I ほうをとったのか？ ちょっとびっくりして押し黙る。けれど、違う、そうじゃないんだと言いたい気持ちだが、どろどろとわき上がってきた。

「とつたんじゃない、とらされたんだよ」

「は？ 誰に？」

「いろんな人にだよ」

茜ちゃんが、七乃羽ちゃんたちが、<sup>※マーボードウフ</sup>「麻婆豆腐」<sup>2</sup> ささやいていた同級生たちが、かわるがわる頭をよぎる。

I のはやだけど、そういうふうになれちゃったんだよ！ 人間なんか、信じられない。友だちみたい

な顔して 3 しながら、平気で人を裏切って傷つけるの。二度とあんな思いをするのは嫌っ

次から次に、言葉が飛び出してくる自分に驚いた。

初めてこのことを、口に出して言えたと思った。

そうだ、今日までこんなに自分が傷ついていたことを、誰にも一言も話せなかったのだ。

鼻の奥がつーんとする。自分の部屋に駆け込むと、ベッドに突っ伏した。掃除して天井に干したおかげで、

ふんわりした枕に顔をうずめたら、また喉の奥から熱いものがこみあげてきた。

「そっか」

レイさんが、私の背中をさすっている気配がする。冷たくもなく温かくもない、空気が動くような気配だけ。

「そんてか。そんて、あたしがこの部屋に来たとき、あんたは泣いてたんや。人に裏切られたんや。辛かったんや」

「……そうだよ」

「泣いたらええやん」と、レイさんが言った。

「辛いことがあったら、泣くしかないやん。あんた、生きてるから泣けるんやし」

そうだ、泣いたらいい。泣くしかないんだ。

私は、泣き始めた。

最初は 4 と声を出さずに。そのうち 5 と、思いっきり声をあげて。

(安田夏菜『レイさんといた夏』より)

※ 麻婆豆腐……友達に陰で言われていた私のあだ名

問1 ——— a k e のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 ——— ①「その期待」とは、どのような期待ですか。「……という期待。」に続くように、本文中の言葉を  
用いて二十五字以内で答えなさい。

問3 ——— ②「黙らせようとした」のは、なぜですか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。  
ア 勉強嫌いで、新学期からの勉強のことを考えると憂鬱になるから。  
イ パパとの二人きりの生活がとても大変なことを話したかったから。  
ウ 毎日スマホのゲームをしていることをしかられたくなかったから。  
エ 新しい学校で友達ができるか不安でそのことを考えたくなかったから。

問4 ——— ③「お見合いは物別れとなった」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 私にとって「お見合い」は、どのようなものでしたか。漢字二字で本文中からぬき出して答えなさい。  
(2) 「物別れとなった」のはなぜですか。理由として当てはまらないものを次の中から選び、記号で答えなさい。  
ア ママに無理矢理引き合わされたから。  
イ 私は「よその人」が怖かったから。  
ウ 共通の話題が見つからなかったから。  
エ 私は漫画にしか興味が無かったから。

問5 ——— ④「つつい嬉しいような気持ちになってしまったのだった」とありますが、なぜですか。四十字  
以上五十字以内でその理由を説明しなさい。

問6 ——— ⑤「しゃあしゃあとした調子」とは、どのような調子ですか。最も適切なものを次の中から選び、  
記号で答えなさい。

- ア あつかましく、けろりとした調子  
イ ずうずうしく、慣れ親しんだ調子  
ウ 機嫌をうかがって、びくびくした調子  
エ 明るく、はきはきした調子

問7

1

5

に入る語句として最も適切なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使つてはいけません。

|   |      |   |        |   |      |   |      |   |      |
|---|------|---|--------|---|------|---|------|---|------|
| ア | おいおい | イ | ぎゃーぎゃー | ウ | しくしく | エ | どんどん | オ | ゲラゲラ |
| カ | わあわあ | キ | ゴソゴソ   | ク | ニコニコ | ケ | どきどき | コ | ヒソヒソ |

問8

⑥「補助輪みたいなもの」とありますが、茜ちゃんにとつての「補助輪」とは実際には何だったのですか。答えなさい。

問9

I

にあてはまる語を本文中からぬき出し、五字以内で答えなさい。

問10

~~~~~A「そうじゃないんだと言いたい気持ちだが、どろどろとわき上がってきた」・B「次から次に、言葉が飛び出してくる自分に驚いた」とありますが、「どろどろわき上がってきた」たり「次から次に、言葉が飛び出して」きたりするのはなぜですか。「:」から。」に続くように、三十字以上三十五字以内で本文中からぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問11

⑦「また喉の奥から熱いものがこみあげてきた」とありますが、「熱いものがこみあげてきた」のは、私が何に気がついたからですか。それがわかる一文を本文中からぬき出し、最初の五字を答えなさい。

